

【あさぎり町】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町は、1人1台端末を活用し、「情報化社会を生き抜く為の児童生徒の育成」を目標に情報活用能力向上に取り組んできた。学校現場では、共同学習ツールを活用し「協働的な学び」の授業を行なっている。また、学習アプリケーションを活用し「個別最適な学び」にも取り組んでいる。これからは、学習アプリケーションを利用し「個別最適な学び」や「自発的な学び」をさらに充実させ、情報化社会をリードできる児童生徒の人材育成を目指していきたい。

2. GIGA第1期の総括

(1) 現状と経緯

GIGA端末の整備と通信ネットワークの整備より情報活用推進体制が整った。しかし、全校生徒がネットワークを利用した際の通信の負荷や通信機器の不具合等も踏まえ、定期的なネットワークアセスメントの必要性を感じている。学校現場では、共同学習ツールを活用し「協働的な学び」の授業を行なうことができるようになった。また、学習アプリケーションを活用し、「個別最適な学び」にも取り組めるようになった。

(2) 課題

現在、学習用ネットワークと校務用ネットワークが独立しており、メンタルヘルスや学習アプリケーションのデータが校務用PCと連携できていない。そのため、データの集約・分析が十分に行えず、教育への活用が限られていることが課題である。今後、学習用ネットワークと校務用ネットワークの統合、教育ダッシュボードの構築、校務支援システムのクラウド化等の取組を進めることで、校務データと学習データの統合的な分析を可能とする。データを活用し、生徒一人ひとりの特性や理解度に合わせた最適な指導のさらなる充実や、個々の実態に合わせた適切な支援を行うことで安心して過ごせる学校環境の実現を図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

本町では、GIGAスクール構想第2期において、令和8年度に端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持する。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていく。

(1) 一人一台端末の積極的な活用のために

本町では、一人一台端末の積極的な活用の取組として、ICT支援員による授業支援を行っている。月に4時間各学校を訪問し、機器の操作や助言、デジタル教科書等のICT活用に関する授業支援等を行い、教職員のサポート体制を整備する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習支援ソフトや授業支援ソフト等を導入したことにより、教職員のICTを活用した授業づくりが進められている。その中で、デジタルドリルの活用による個別最適な学びや、授業支援クラウドアプリケーション等の活用によって児童生徒が主体となった学びの実現にむけて、引き続き学校へ支援を行う。

(3) 学びの保障について

不登校児童生徒、障がいのある児童生徒等、特別な支援を必要とする児童生徒が一人一台端末、学習支援ツールを活用することで学習機会を確保する。